

# ユーザー目線とメーカー 技量の橋渡し

一橋大学 大学院 商学研究科教授

栗原史郎 [cc00207@srv.cc.hit-u.ac.jp](mailto:cc00207@srv.cc.hit-u.ac.jp)

セーフティ・システム・インテグレーションの  
普及と定着に関するシンポジウム

主催：(社)日本機械工業連合会

平成23年2月23日 東京証券会館ホール

# 安全に関して、いい会社とは？

1. 安全に関する理念や方針を社内外に明示
2. 従業員全員やその他のステークホルダーに働きかけ、理解を深める
3. 全員参加で安全活動を推進する経営システム（PDCAサイクル）を回す
  - 安全に万全を期す会社（安全万全企業）
  - これまでは、安全神話企業が多かった

# インテグレーションとは何か

- 語源は、integer(整数)
- Integrity とは、健全、完全、無欠
- したがって、インテグレーションとは、「すき間を埋めて完全にする」という意味
- すなわち、単体機械を集めただけでは残留リスクの足し算になるだけだが、ユーザーのニーズにふさわしいトータルな安全設計を新たに行い、生産システムの全体最適を図る

# 安全を欠けば不完全

- 安全はユーザの要求のすべてではないが、安全を欠けば完全とはいえない
- ユーザーの目線とメーカーの技量を組み合わせると、より完全に近づける
  1. ユーザーの要求事項を
  2. 仕様書として表現し
  3. それを基に、設計図面を作成

# モノの安全から場の安全へ

- 安全の対象が、モノとしての単体機械から、それらが組み合わさった設備になると
- たくさんの関係性が重なり合った「場」の安全性が問われる
- たとえば、機械/機械/部品/作業者の相互間に特有の関係性が生まれ
- それぞれのインターフェースの安全が問題
- 単体機械の設計変更も求められる

# 安全万全社会への文化革命

- これまでの安全神話社会と決別し
- 安全に万全を期す社会に転換することが必要
- そのためには、作業環境や日常生活環境の隠れた危険を鋭敏に感じ取り、それを他者に伝え、対策が講じられるように協働することが必要

# 安全は言わぬが身の危険

- 参考文献
- 「序章 安全という視点を経営に組み込め」栗原史郎監修、(社)日本機械工業連合会編『安全は競争力』日刊工業新聞社 pp.3-22 2009年11月
- 「スタンダードの観点からの安全問題への提言」L&T(民事法研究会発行) No.36 2007年7月号 pp.7-18
- 「CSRからみた安全問題と商品の社会的責任」『経済系』(関東学院大学経済学会研究論集)第245集 pp.1-12 2010年10月

ご清聴ありがとうございます  
ございます